

いばきた

デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA
DESIGN PROJECT
REPORT

08

2021 / 02



お問い合わせ
茨木市 都市整備部 北部整備推進課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13
電話：072 (620) 1609
ファックス：072 (620) 1730
メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp

次なる
茨木へ。

真言宗仁和寺の末寺「大門寺」の見事な紅葉。境内では、春に梅や新緑、夏は紫陽花が咲き誇り、四季折々の景色が広がる。少し足を延ばすと「安威川ダム展望広場」があり、ダムの建設工事を一望することができる。

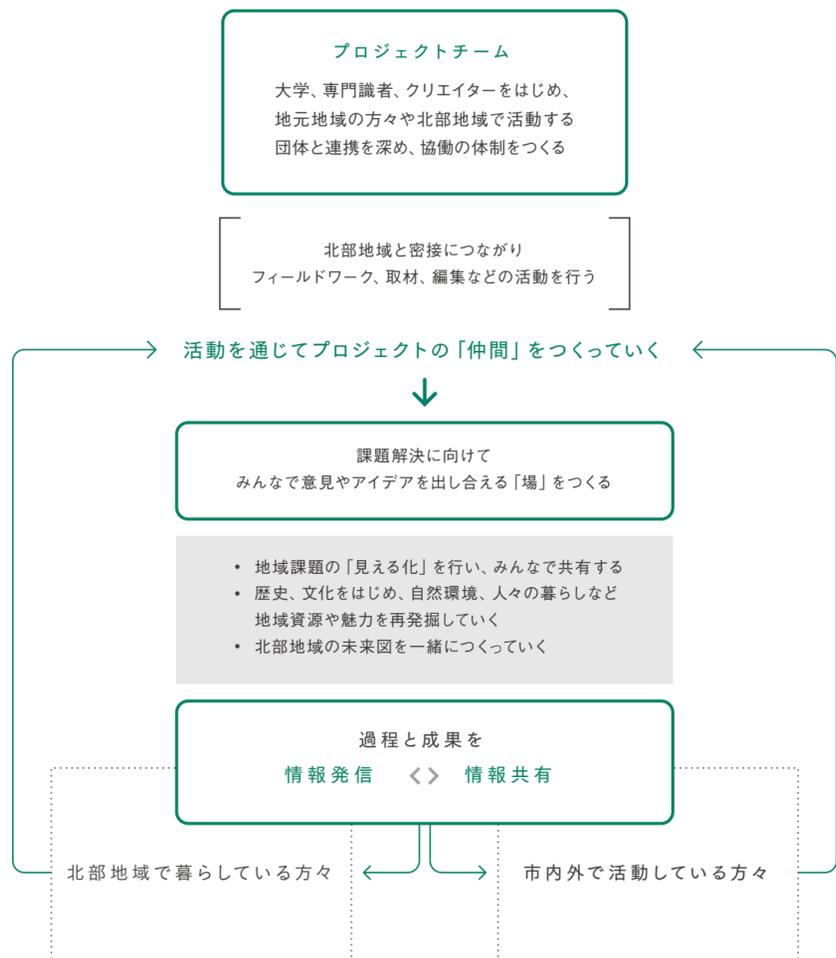
茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができるフィールドを創出するため、平成30～令和2年度の3年間を実践期間として取り組んできたのが、いばきたデザインプロジェクトです。来年度以降は、このプロジェクトで培った地域との関係性を基盤に、より発展的な取り組みを行っていきます。

いばきたデザインプロジェクトでは、活動の過程や成果を編集し、期末ごとに「冊子」を発行します。本年度は、「旧石河村地区」と「大岩いも掘り園」を対象にしています。

課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。





地元の方々と一緒になって、
地域資源や魅力を再編集し、
「新たな価値創出」へとつなげていく。

大阪大学大学院 工学研究科の学生が
「安元」でフィールドワークを行いました。

「いばきたデザインプロジェクト」では、茨木市北部地域における少子高齢化、農業従事者の担い手不足をはじめとする幾多の課題について、地元の方々、行政、市内外の人たちと一緒にデザインによる解決を目指します。また、地域資源や魅力を掘り起こし、再編集することによって、新たな価値創出に向けての糸口を見出していきたいと考えています。

大阪大学大学院工学研究科環境エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域の学生たちとのチームによる「安元」のフィールドワークでは、自治会長の池上克二さんをはじめ、次世代を担っていく方々にも集まっていただき、地域の課題点、活性化に向けての取組みなど、さまざまな意見やアイデアをお聞きすることができました。今後も、深く情報共有を図り、交流の機会を増やしていきながら、みなさんと共にプロジェクトを推進させていきます。



棚田越しに大阪の市街地を一望する絶景のビューポイント。写真の中心にある工事現場は、令和4年春に本体完成を予定している安威川ダム建設地。完成すると、眼下にダム湖が望めるようになる。



休眠していた「炭焼き窯」を復活させ、
技術と記憶を次世代へつなぐことで
安元の新たな地域資源を生み出していく。

安元地区では、地元に残る炭焼き窯を復活させ「昔ながらの里山の暮らしを再現してみよう」という活動をスタートさせました。生活の変化や農林業の衰退によって使わなくなった窯を、炭焼き経験者と若手が力を合わせて修復させ、眠っていた窯に火が入れられることになりました。古くから伝わる技術の継承と昨今のアウトドアレジャー需要を見据えて、里山整備、炭焼き、販売といった循環を生み出し、地元で暮らす人たちが一体となって、新たな地域資源づくりに取り組んでいます。